

は膨大な量ではないと推測されるので、統計的な手法を用いた暗号解読に対しては強いであろう。しかし「暗号」の特性として「絶対」はありえず「暗号研究」の進展とともに「暗号」は脆弱になるものであるが、これはインターネットを経由した暗号通信全般の問題であるので、常に時代の技術進歩に対応した暗号化技術を導入してゆけば、楽観的ではあるが、十分対応できよう。

#### B. 研究結果・考察・結論

以上のようなシステムを設計したが、初年度は時間の制約とデータベース構築の遅れのため、システムの設計に留まった。第2年度からは、まずデータ入力者とサーバーの間でのデータ送信の試験的な運用から始まり、参加病院からの直接的なデータ送信へと本格的な運用に入る。

#### C. 研究発表

該当項目なし

#### D. 知的所有権の取得状況

該当項目なし